



多くの仲間と交流できたよ!

大阪自治労連 青年部 新採歓迎Party

6月2日、大阪自治労連青年部が「新採歓迎Party」を開催。12単組74人が参加しました。オープニングは衛都連合唱団の素晴らしい合唱があり、参加者も一緒に歌って盛り上がりました。途中のゲームでは男女がペアになり、新規採用者に名前を聞いて「名前ビンゴ」を開催。ペアで力を合わせてビンゴを完成させ、ビンゴペアには各単組からの景品をプレゼント。2次会にも新採さんも含め約50人が参加。同じ大阪府内で働くなかまとして、みんなで歓迎し夜はふけていきました。

今、労働組合や公務員に対する風当たりが強くなっていますが、住民のためにがんばる労働組合としてもっと組合のことを知ってもらい、なかまを増やしていきたいです。

もっと組合のこと、知ってほしい!

衛都連合唱団が平和を願って「その手の中に」を歌いました 食事もしながらの交流



各単組からのスピーチ



松原市職員労働組合
学童保育支部



後列左から、加野満智子さん、阪本信子さん、三上毅さん、
前列左から山田満寿美さん、野村礼子さん

学童保育指導員の正規化を後退させた松原市。2012年度末ですべて職員が非常勤化されてしまいます。最後の年度に残った5人の正規の学童指導員の方に話を聞きました。

親、子、指導員 日々のドラマがあるから がんばれる

保護者と一緒につくり
上げてきた学童保育

松原市の学童保育は20年前に、寝屋川市に続いて非常勤嘱託職員だけの職場から、1児童会室につき1人の正規職員の配置を実現しました。

その背景には、働きのながら子育てをしていく環境を整えようとする保護者たちの運動が大きくなっていったことがあります。

育休、産休明けで年度途中からは認可保育園には入所できない子どもを持った保護者たちは、共同保育所の運営をし、保育園卒園後も共同学童保育所の運営にあたってきました。

こうして、保護者と保育士や学童保育指導員は力を合わせて、子どもたちの健やかな成長と安心して預けられる保育の場を自分たちの手で作ろうと頑張ってきたのです。

「正規化によって、午前中は保育準備をしながらそれぞれの児童会室の交流をし、また、今抱えている問題などを出し合っただけで、月2回の会議が認められていますが、限られた時間では、あらゆる方面からのアドバイスも出にくい」と山田さん。

「学童保育連絡協議会に結集し、ともにやってきた運動や学習会、署名活動など今まで積み重ねてきた運動をこれからも発信させたいという思いがあふれてきます」と熱く思いを語る阪本さんです。

「結局現場に任せが!」市は2010年度から2012年度の3年間で正規職員の引き揚げを実施。引き揚げを行った児童会室は2人の嘱託職員と加配職員であるアルバイト職員が配置されました。新体制の児童会室では、指導員が全員入れ替わってしまうという事態もありました。

当局は、「保育内容は下がない」と保護者に説明しました。しかし、勤務時間が短い中では現状の保育内容を維持するのは到底無理があり、非正規の指導員は時間外に仕事をしたり、仕事を家に持ち帰るなど、結局しわ寄せは現場の非正規指導員にかかっています。

学童保育は 私たちの誇り

「学童保育指導員という仕事を一生の仕事と思いい、子どもたちや保護者にも信頼を得て仕事をさせていただきました。学童保育に子どもたちや保護者がいるのに、私たち指導員だけが職場を去らねばならないことは本当に悔しい。指導員という仕事をはなれても、松原市の子どものためめ働く保護者のために学童保育運動にかかわっていききたい。学童保育は私たちの誇りです」と語る三上さんです。